

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **公開実用新案公報 (U)**

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-49646

(43)公開日 平成5年(1993)6月29日

(51)Int.Cl.⁵

B 65 D 83/22

識別記号

庁内整理番号

6916-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数1(全3頁)

(21)出願番号 実願平3-108643

(22)出願日 平成3年(1991)12月5日

(71)出願人 000157946

岩井機械工業株式会社

東京都大田区東糀谷3丁目17番10号

(72)考案者 望月 克

東京都大田区東糀谷3丁目17番10号 岩井
機械工業株式会社内

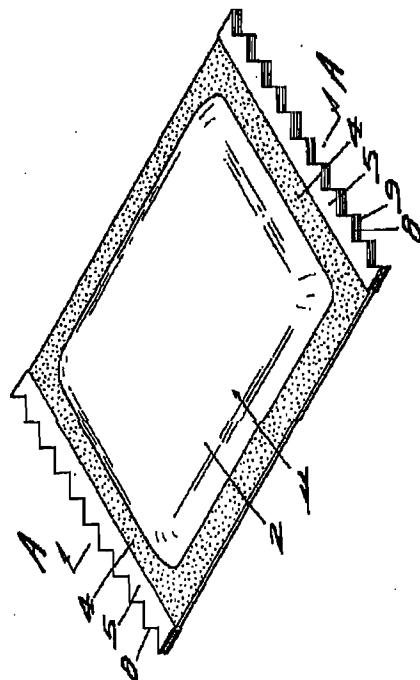
(74)代理人 弁理士 杉山 泰三

(54)【考案の名称】 包装用袋

(57)【要約】

【目的】 不意の開封に対して抵抗力を強くする工夫を施した包装用袋を提供することを目的とする。

【構成】 中身1を入れてから前后面板2、3の開口縁を相互に溶着して閉口した状態で消費者に提供する形式の包装用袋において、前后面板2、3の閉口用溶着部4の外側に延設した前後非溶着部5、6と、前後非溶着部5、6の基端間に溶着時の加圧による流動により形成された食出部7と、前後非溶着部5、6の外縁に設けた鋸歯状切縁8、9をもつものである。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 中身 1 を入れてから前後面板 2、3 の開口縁を相互に溶着して閉口した状態で消費者に提供する形式の包装用袋において、前後面板 2、3 の閉口用溶着部 4 の外側に延設した前後非溶着部 5、6 と、前後非溶着部 5、6 の基端間に溶着時の加圧による流動により形成された食出部 7 と、前後非溶着部 5、6 の外縁に設けた鋸歯状切縁 8、9 をもつことを特徴とする包装用袋。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案に係わる包装用袋の実施例を示す斜視図

1

2

である。

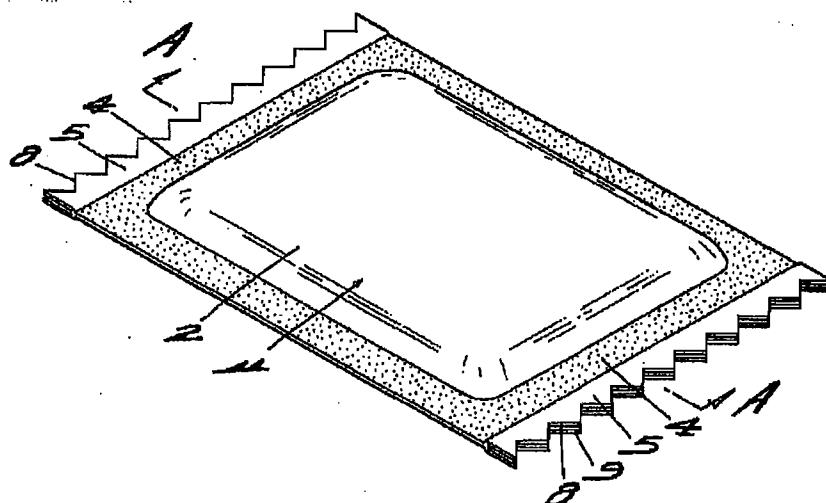
【図 2】 図 1 A-A 線に沿う断面図である。

【図 3】 従来例を示す全体の斜視図である。

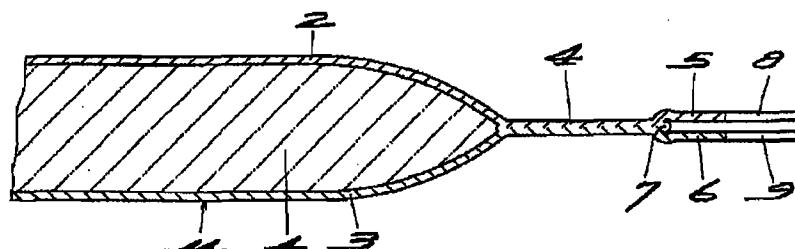
【符号の説明】

1 中身	2 前面板
3 後面板	4 溶着部
5 非溶着部	6 非溶着部
7 食出部	8 鋸歯状切縁
9 鋸歯状切縁	10 鋸歯状切縁
11 袋本体	

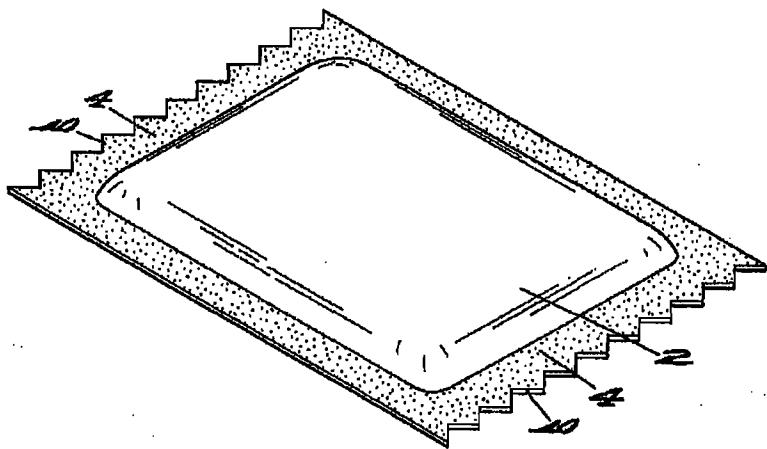
【図 1】



【図 2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、中身を入れてから前後面板の開口縁を相互に溶着して閉口した状態で消費者に提供する形式の合成樹脂フィルム製真空包装用等の包装用袋に関し、詳しくは手指で切り裂いて開封できる中身入り包装用袋であって不意に開封しにくくする工夫を施した包装用袋に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来、図3に示すように前後面板2、3の閉塞用溶着部4の外縁に非溶着部がない状態で直に設けた鋸歯状切縁10の谷のうちの一つを切込ノッチとし手指で切り裂いて開封する形式のもの、閉口用溶着部4の外縁に一つのV型切込ノッチ、または一つの型切込ノッチを設けたものは知られている。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

上記従来の技術において述べた包装用袋は、鋸歯状切縁10の谷、V型切込ノッチ、I型切込ノッチは不意の開封に対して抵抗力が弱かった。

本考案は不意の開封に対して抵抗力を強くする工夫を施した新規の包装用袋を提供することを目的とするものである。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するために本考案に係わる包装用袋は、中身1を入れてから前後面板2、3の開口縁を相互に溶着して閉口した状態で消費者に提供する形式の包装用袋において、前後面板2、3の閉口用溶着部4の外側に延設した前後非溶着部5、6と、前後非溶着部5、6の基端間に溶着時の加圧による流動により形成された食出部7と、前後非溶着部5、6の外縁に設けた鋸歯状切縁8、9とをもつものである。

【0005】**【作用】**

溶着時の加圧による流動により形成された食出部7は他の部分より肉厚であつて不意の開封に対する抵抗力を強くする。また、前後非溶着部5、6の外縁に設けた鋸歯状切縁8、9は谷のある個所なら何処からでも開封できる。

【0006】

【考案の効果】

本考案に係わる包装用袋は、前後面板2、3の閉口用溶着部4の外側に前後非溶着部5、6を延設し、これ等前後非溶着部5、6の外縁に鋸歯状切縁8、9を設けたので、この鋸歯状切縁の谷部を利用すれば手指による開封を容易になすことができるものであり、また前後非溶着部5、6の基端間に溶着時の加圧による流動によって食出部7を設けたので、この食出部7の存在によって不意の開封を阻止できるものであり、所期の目的を充分に達成する優れた効果を有するものである。

【0007】

【実施例】

図に示す本考案の実施例は、熱可塑性合成樹脂フィルム製の両端開口型包装用袋本体11に中身1を入れてから前後面板2、3の開口縁を溶着して両端開口を閉塞すると共に前後面板2、3の開口用溶着部4の外側に前後非溶着部5、6を延設し、また前後非溶着部5、6の基端間に溶着時の加圧による流動により食出部7を形成し、更に前後非溶着部5、6の外縁に鋸歯状切縁8、9を切設したものである。

【0008】

尚、図面において点描した部分は溶着された個所を示す。